エフレムの祝文

主吾が生命の主宰や怠惰と愁悶と陵駕と空談の情を我に與ふる勿れ。眞操と謙遜と忍耐と愛の情を我爾の僕(婢)に與へ給へ。嗚呼主王や我に我が罪を見我が兄弟を議せざるを賜へよ。蓋爾は世々に崇讃めらる「アミン」

神や我罪人を浄め給へ　十二次

主吾が生命の云々

常に福

常に福にして全く玷なき生神女 吾が神の母なる爾を 福なりと稱ふるは眞に當れり ヘルウィムより尊くセラフィムに並びなく榮え 眞操を壞らずして神言を生みし 實の生神女たる爾を崇讃む

爾は爾の審断に義にして爾の裁判に公なり夫れ我は不法に於て妊まれ我が母は罪に於て我を生めり夫れ爾は心に眞實のあるを愛し我が衷に於て智慧を我に顕せり「イソプ」を以て我に沃げよ然せば我潔くならん我を滌えよ然せば我雪より白くならん我に喜びと楽とを聞かし給へよ然せば爾に折られし骨は欣ばん爾の顔を我が罪より避け我が盞くの不法を抹し給へ神や清潔き心を我に造り正直き霊を我の衷に改め給へ我を爾の顔より逐うこと勿れ爾の聖神を我より取り上ぐること勿れ爾が救ひいの喜を我に還し主宰たるの神を以て我を固め給へ我不法の者に爾の道を教へん不虔の者は爾に歸らんとす神や我が救ひの神や我を血より救ひ給へ然せば我が舌は爾の義を讃揚げん主や我が唇を啓けよ然せば我が口は爾の讃美を揚げんとす蓋爾は祭を欲せず欲すれば我之を獻らん爾は燔祭を喜ばず神に喜ばるゝの祭は痛悔の霊なり痛悔して謙遜なるの心は神や爾軽じ給はず主や爾の恵に因て恩をシオンに垂れイエルサリムの城垣を建て給へ其の時に爾義の祭献物と燔祭とを喜び饗けん其の時に人々爾の祭壇に犢を奠えんとす。

天の王

天の王慰むる者や眞實の神在らざる所なき者満たざる所なき者や萬全の寶蔵なる者生命を賜ふの主や來て我等の中に居り我等を諸々の穢れより潔くせよ至善者や我等の靈を救い給へ

天主経

天に在す我等の父や願は爾の名は聖とせられ爾の國は來り爾の旨は天に行はるるが如く地にも行はれん我が日用の糧を今日我等に與へ給へ我等に債ある者を我等免すが如く我等の債を免し給へ我等を誘いに導かず猶我等を凶悪より救い給へ。蓋國と権能と光榮は爾に世世に歸す。「アミン」

第五十聖詠

神や爾の大いなる憐みに因て我を憐み爾が恵の多きに因て我の不法を抹し給へ屡々我を我が不法より洗い我を我が罪より清め給へ蓋我は我が不法を知る我の罪は常に我が前に在り我は爾獨爾に罪を犯し悪を爾の目の前に行へり

信経

我信ず　一の神父全能者　天と地　見ゆると
見えざる萬物を造りし主を。　又信ず　一
の主イイスス　ハリストス　神の獨生の子
萬世の前に　父より生まれ　光よりの光
眞の神よりの　眞の神　生まれし者にて造
られしに非ず　父と一体にして　萬物彼に
造られ　我等人々の為　又我等の　救の為に
天より降り　聖神及び童貞女マリヤより
身を籍り人と為り我等の為に　ポンティ
イ　ピラト　の時　十字架に釘うたれ　苦し
みを受け　葬られ　第三日に聖書に叶うて
復活し天に升り　父の右に坐し　光栄を　顕
して生ける者と死せし者を審判する為に
還た來り　その国終りなからんを。　又信
ず　聖神主生命を　施す者　父より出で　父
及び子と共に拝まれ讃められ　預言者を
以て嘗て言いしを。　又信ず　一の聖なる
公なる使徒の教會を。　我認む　一の
洗禮以て罪の赦を得るを。　我望む　死者
の復活並に來世の生命を。「アミン」